

## “子供を大切にする” ということ

特集  
13

宮島 肇

学校の教師をしているからとか、市の青少年問題協議会の仕事を手伝っているからとかの理由からだけでなく、私は一個の市民の立場に立ってみても、ほんとうに住みよい都市というものは、子供が大切にされている都市でなければならぬと平素考えている。それはきわめて簡明な事実にもとづいている。すなわち、子供はもともと身体的にも精神的にもか弱くて未成熟な存在であるから、青年や成人男女にくらべて、おとなや社会の側からのより一層あたたかい配慮と保護と、より一層好適な環境条件——清い空気とあたたかい太陽と緑の空間との整備とを必要とするということである。だから子供たちのために、そういうおとなや社会の側からのあたたかい配慮と保護と好適な環境づくりとがゆきとどいている都市なら、もちろんおとなにとっても住みよい都市であるにちがいないし、それがまた本当の意味においての文化的な都市、市民のための都市、市民生活中心の都市となるはずだからである。そういう意味では、今日の横浜の都市づくりの2大柱である「子供を大切にする市政」と「だれでも住みたくなる都市づくり」とは、別々の柱ではなく、もともとは一つに帰着すべきものと私は考えている。子供たちが——お金持の子供であろうと貧乏人の子供であろうと、中産階級の子供であろうとボーダーライン

層の子供であろうと、知能指数130の子供であろうと知恵おくれの子供であろうと、健康優良児であろうと身体不自由児であろうと——そういうすべての子供たちが、健康に自由にのびのびと育てゆく横浜市となるならば、だれでもが——男であろうが女であろうが、青壮年であろうが老人であろうが、すべての人が住みたくなる横浜市になっているはずだからである。

個々の専門家からはそれは大まかだ、大ざっぱだと笑われるかもしれないが、実は私はそういう立場から横浜市政全体のあり方をながめている。たとえば、今度の市民生活白書の総論で、「子供を大切にする市政」の仕事として、学校教育施設の整備、父母負担の一扫、講堂・プールの大量建設をはじめとして、無料育児相談の開始、3才児検診、またチビッコ広場・児童公園の拡充、青少年図書館・保育所の建設等があげられているが、私はこういった種類の子供を直接対象とした施設や設備だけが子供を大切にする市政だとは思っていない。公害除去の問題も、過密地帯や交通禍の問題や、本牧租界や岸根基地の接収の問題なども、一步掘り下げればすべて子供を大切にする市政に深くつながっていると考えている。なぜなら、公害や交通禍から横浜の子供たちの尊い生命がむしばまれ傷つけられていることはいうまでもないこと、租界や基地の存在が横浜の子供たちの生命や道徳意識を何らかの形でむしばんでいることは、基地をもたない地域の子供たちの作文などとひき比べてみるとよくわかるのである。

いや、それだけではない。住宅問題の解決としての市営住宅の建設も、上下水道や道路の整備も、公園や緑地帯の拡充も、これまたすべて一步掘り下げれば、子供を大切にする市政に密接につながっているのである。六畳一間に親子5人という住宅状況では、子供の勉強机一つおけるはずもないし、水道の拡充がなければプールの水も使えない

し、通学路や跨線橋の設備がなければ、子供の生命はいつ危険にさらされるかわからないからである。

いや、もっと多くの問題が意外なほど子供を大切にする市政に直接間接結びついているのである。公害問題についてはすでにふれたが、大企業の高い煙突に集塵機一つとりつけさせることにも、また自動車に排気ガス除去の装置を取りつけさせることにも、市政当局者の不退転の決意と努力とが必要であることはいうまでもないが、こういう市政当局者の努力が積み重なって、ほんとうに市民全体を守り、やがてまた子供を守り子供を大切に結果を生んでくるのである。

このような眼で今度の白書のページをくってゆくと、私には第1部も第2部もすべて一つに結び合っているものとみえるのである。すなわち健康、公害、教育、文化、住宅、清掃、公園、接収解除等々の課題を正しい形で解決するためには、その物的原動力としての横浜市民の生活と職業と経済との充実発展が必要不可欠であるし、さらにまた税金の取立てやその公正な配分としての財政の正しい運営が必要となるからである。いわば子供を大切にする市政とは実はそれだけの深さと広がりをもっているのである。

今度の白書では、過去4年間の飛鳥田市政の成果をふまえて、右のような新しい都市づくりにさらにまい進してゆこうという態勢が十分に看取できる。しかし正直に言って、それはようやく緒に付ただけで、その充実は今後にまたなければならぬ段階のようにみえる。私は、「子供は大切にされているか」と問われれば、私はやはり「態勢は十分にできた、だが内容の充実はこれからである」と診断しておきたい。

<横浜国大教育学部教授>